

第四回オカヤ駅から未来プロジェクト

【事務局】：

前回の会議では「岡谷駅周辺まちづくり将来ビジョン」（以下、将来ビジョン）等の素案について協議を行った。その後、各委員からの意見を踏まえて会長と協議し、事務局として修正案を作成した。

本日は、全体会議にて修正内容等を説明するとともに、本プロジェクトの成果として提案をまとめ、市長へ提言を行う予定となっている。

【会長】：

第3回会議（昨年11月7日開催）において、概ねの方向性について各委員より賛同を得たため、微調整および整合性の確認については会長一任とし、事務局と調整を行ってきた。

1月31日に実施された市民ワークショップを経て、本日提示する案が完成した。本日は取りまとめとして最適な時期であり、来年度の「ララオカヤ」解体を含め、事業を一步進める好機であると考えている。

本日は最終回となるが、説明後の微調整を含め、忌憚のない意見をいただきたい。

議事：将来ビジョンとまちなか空間活用のススメ（以下、ススメ）について
将来ビジョンについての説明

【コンサルA】：

前回からの主な修正点は以下の通り。

- ・冒頭メッセージ（プロローグ）の追加
- ・市の想いを表現した文章の追加。「歴史を大事にしながら、時代の変化を的確に捉え、新しいことに挑戦する」という内容で、市民と共に新しいまちを育てる姿勢を示した。
- ・構成と課題の整理
- ・前回、課題の記述が膨大であるとの指摘を受けたため、岡谷駅周辺の課題を以下の5項目に集約・整理した（詳細データは別冊資料編に掲載）。

1. 岡谷駅前の都市機能と価値検討：

ララオカヤ閉鎖の影響、近隣と比較した都市機能の低下等。

2. 定住人口の拡大と生産年齢人口の維持：

人口減少、少子高齢化による産業の担い手不足への懸念。

3. 既存施設の有効活用と交流・関係人口の拡大：

ララオカヤ跡地、南口駐車場、市有地等の活用による滞在人口拡大。

4. まち中への人の誘導：

人流データ分析の結果、駅やレイクウォーク岡谷には集客があるものの、童画館通りや

中央通りへの回遊性が弱い。

5. 交通結節点の機能強化：

路線バス利用の減少、送迎車両による駅前広場の混雑・錯綜等の課題。

・ エリアビジョンの整理

5つの課題に対するエリアビジョンの対応一覧表を作成。

駅周辺の一体感を重視し、エリア A-1 を北口、エリア A-2 を南口としてエリア順を変更。

・ 概要版の作成

市民への分かりやすさを重視し、案内役のマスコットキャラクターを配置した概要版を作成した。

(2) ススメについての説明

【コンサル B】：

・ 基本理念として「一人一人の『やってみたい』が叶えられるまちへ」を掲げ、市だけでなく市民や関係者が主体となれる4つの行動指針を定めた。

・ 具体的な場所（リーディングエリア）の活用方針

岡谷駅から市役所周辺までのエリアにおいて、以下の5箇所を選定し、将来イメージ（パース図）を作成した。

1. ララオカヤ跡地：

解体後は芝生広場等の空間とし、将来的な用途は市民と共に検討する。

2. 童画館通り：

既存のファンタジー要素に加え、道路空間を最大限活用できる空間を目指す。

3. 中央通り：

カネイチビル1階等のコミュニティスペースを拠点に、個性的な店舗の創業支援や回遊拠点化を図る。

4. 蚕糸公園：

「日常と防災を紡ぎ、楽しむまちの庭」として、旧庁舎前空間を活用し、防災機能も可視化する。

5. 市役所前広場：

「ハレとケ」の二面性を持つ空間として、滞留空間を創出し、市民の動線となる場所を目指す。

・ 実現に向けて

まちづくり会社との連携や、「パブリックスペース・プラットフォーム（仮称）」による官民連携体制の構築を進める。巻末にはワークショップでの市民メッセージ等を掲載した。

(3) 市民アンケート結果報告

【事務局】：

- ・1月1日から21日まで実施したオンラインアンケートにて、24件の回答を得た。
- ・駅前エリア再生への期待の大きさが伺える結果となった。
- ・主な意見と市の考え方

駅ロータリー・駐車場・動線：混雑解消、動線分離、駐車スペース確保の要望。

市の考え：令和10年度から実施予定の駅前広場整備にて検討する。

若者の居場所・商業施設・ハコモノ整備：若者の居場所や賑わいの創出、建物整備の賛否両論。

市の考え：ララオカヤ跡地は緑地広場としての暫定利用や社会実験を通じ、時間をかけて必要な機能を検討する。

【会長】：

- ・貴重な意見が寄せられたため、アンケート結果はホームページ等で公開し、市の考え方を明確に示すべき。
- ・行政計画に対する「作っても実行されない」という懸念を払拭するため、実現可能性を含めて誠実に伝えることが重要である。

委員からの意見・感想

【委員 I】：密度の濃い内容であり、期待感を持って確認した。「将来ビジョン」と、第一歩となる「ススキ」がセットになっている点が評価できる。今後は「魅力の連鎖」をどう生み出すかという戦略が重要である。ララオカヤ跡地が利用可能になるまでの数年間、どこから着手し、どのように力を集中させるか議論が進むことを期待する。

【委員 G】：ララオカヤの解体と跡地利用は、バス事業者としても関心が高い。更地にして終了ではなく、真に人が集まる有効利用と、駅前ロータリーの整備を要望する。

【委員 F】：市民の関心と期待の大きさを感じる。タクシー事業者として、駅を降りた際の不安解消が重要であると考え。駅は「まちの顔」であり、タクシー等の交通機関は「その次の顔」である。利用者が安心できる環境づくりを含め、案を練り上げていただきたい。

【委員 E】：先日、伊那市駅長からララオカヤ解体の話題が出た。解体が決定し、次の段階へ進むことに対し市民も、市民以外も興味を持っている。景観が綺麗になる反面、寂しさもあるが、JRとしても協力して進めていきたい。

【委員 H】：製造業が減少する中、駅前の商業と工業の連携を常々考えている。次世代が戻

りたくなるような、若者がワクワクするまちづくりが不可欠である。青年会議所などの若い団体を巻き込み、次世代の意見を取り入れる仕組みが必要である。

【委員 D】：過去の駅前や中央通りの開発の結果、郊外への人口流出を招いた経緯がある。今回提示された 5 つの拠点を同時に進めることは困難であると推測する。まずはララオカヤ跡地と童画館通り、蚕糸公園と市役所前広場といった優先順位や連携が必要。また、長期計画だけでなく、5 年・10 年スパンの計画策定も要望する。

【委員 C】：高齢化が進む中、歩けるまちの魅力と車の利便性の両立が課題である。童画館通りにおいて、歩いて楽しい仕掛けが必要である。また、SNS 等を活用した市民への周知や、岡谷の技術力をアピールする仕掛け（駅前のガラス張り工場等）も検討の余地がある。

【委員 A】：岡谷駅からレイクウォークまでの区間では様々な取り組みの可能性がある。今回作成のビジョンの中には、諏訪湖畔のエリアも含まれているが、なるべく一転集中型での整備をしたほうが良いと考える。また、バスやタクシーに加え次世代モビリティの台頭も予期されている。ぜひ、岡谷駅の南側の整備についても第二期整備として考えるべき。

【会長】：今回の将来ビジョンにおいてエリア 1-A、1-B と分けたのは、整備の可能性を見越してそのように記載している。

【委員 B】：通常の計画策定などは、市が意見をまとめて終わりという流れが多かったが、今回の将来ビジョンでは、市民から多くの意見を集約しており全体的にまとまりの良いものとなったと思う。

【会長】：微調整は必要だと思うが、本日市長に提言させていただくこととして、この案で進めさせていただくがよろしいか。

一同：

異議なし。

閉会挨拶

【会長】：本日をもって一区切りとなる。岡谷らしいまちづくりに向けて、これまで以上に市民に分かりやすい、前に進んだ計画になった。これが確実に前に進むよう、今後、事務局には対応いただきたい。皆様にご協力いただき着実にビジョンを作成することが出来た。ありがとうございました。